



第27回 日経STOCKリーグ説明会



Rikkyo Ikebukuro Mathematical Science Club

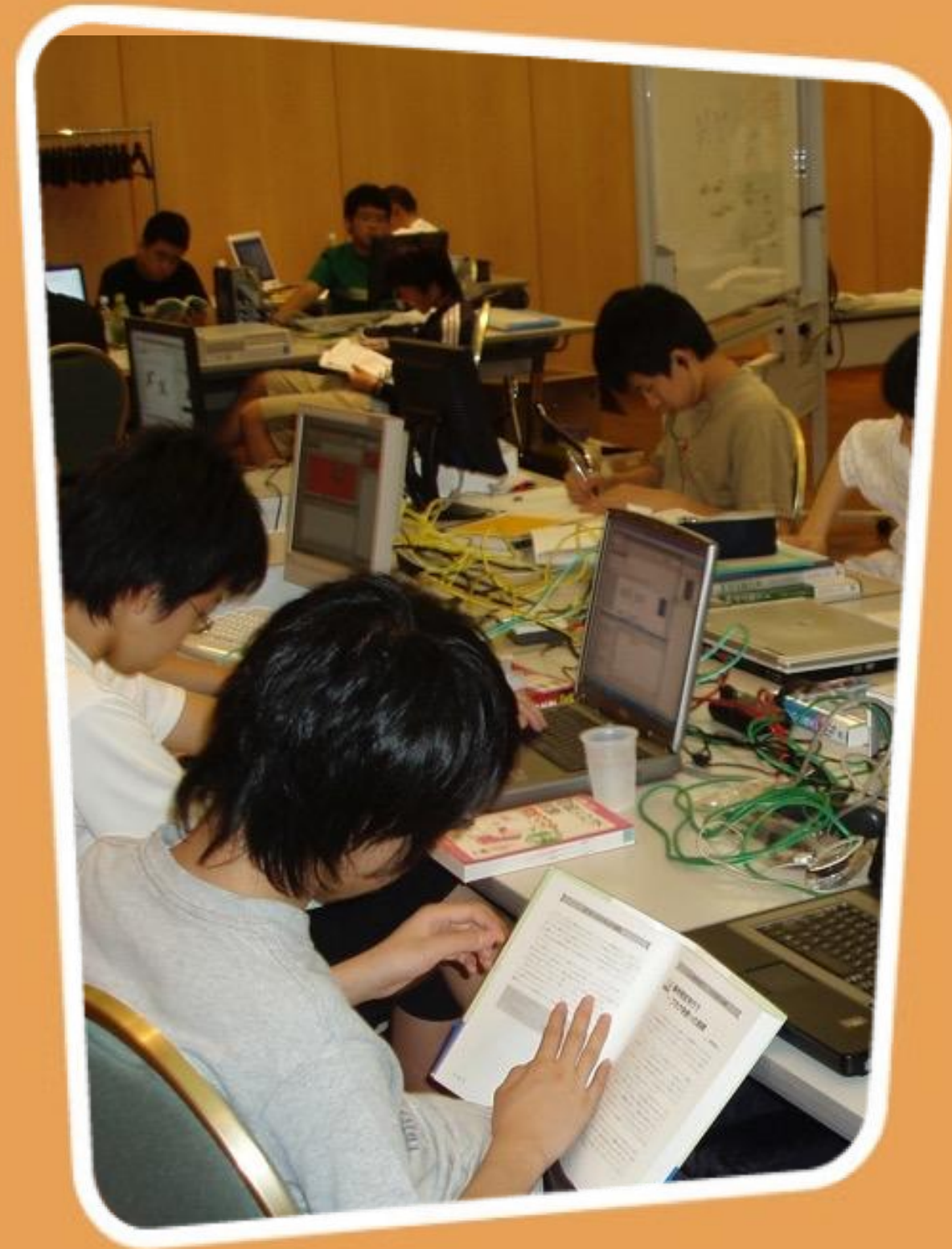
2026.7.4

立教池袋中学校高等学校
数学科教諭・数理研究部顧問
内田 芳宏

◆ 1971年設立の部活動 創設55年

- ・ 中1～高3まで一堂で活動する。
- ・ 2026年度部員数46名
例年45名から55名（1学年8～10名）
- ・ ユークリッドの原論を読み解く部活動として始動
- ・ 1990年代からPC関連の活動の範囲が広がる

数学 → + 情報系 → + 経済系 → + 社会解決課題探求



◆活動目的！

- ・ 数学の多方面での応用をより早く知る。

→理数系は当たり前。

経済学・社会学・心理学・言語学…への応用

数学検定©準1級習得を履修してから大学の社会科学系に進め。

- ・ 知的好奇心を刺激し、極めること、研究することの楽しさを体験する。

→与えられたものをこなすのは上手い。

さらに、自分の力でなせばなることとチームで作業する経験が

今後の生きる力になる。

◆活動方針①

・コンテスト・大会への参加

個人主義からチーム探究への一歩

- ・プログラミングや探究活動が個人でも可能な時代だからこそあえてグループでの取り組みをさせる。
- ・一人でできないことがあるからこそ複数で役割分担する
一人の作業の遅れが全体に影響することの自覚
できなかった場合のリカバリーの方策を考えておくこと
自分の不得意分野でも他のメンバーでは得意分野の可能性が有ること
それぞれの個性や特技、技能をお互いに認めあうこと

◆活動方針②

最優秀賞・全国入賞など結果を求めない、ゴールにしない

- ・結果をゴールとすると自由な発想が減る。
結果は後からついてくるものである。

作品の完成と提出がゴールである。

- ・そのために必要な知識やスキルを習得することは必須。
一方、1人でできないことは無理をせずチームで解決する。

◆日経STOCKリーグへの参加

きっかけ

- ・ 2001年の日本経済新聞朝刊掲載された募集広告を生徒が持ってきた
→2000年4月に立教池袋中学校高等学校と学校が変わり、部活動にも高校生の入部が始まり、これまで以上に活動の幅が広がることが予想された。
→その記事を読み、投資の話ではない、利益追求のための金融教育ではないと判断した。
- ・ 数理研究部の活動の一環なので、やりたい部員がいれば取り組めることも大きい
→当時、「金融教育＝金儲けの教育」と教員間の誤解や理解不足もあったが、「部活動」で押し通した。教員より保護者やOBの理解や応援が大きい。
活動の結果から徐々に氷解していく。
- ・ 2001年度に初参加。2003年度から2026年度まで参加し続けることできている。
日経STOCKリーグに挑戦したいといって入部する生徒もいる

◆日経STOCKリーグに対する活動方針

①どんなテーマでもまず受け入れる

- ・Noをいうのは簡単

- ・批判、否定するのも簡単

指導する側は、よく考えてほしい。本当にNoなのか。

それはあなたの主観ではないのか。

- ・生徒の話をよく聞き、感想を述べる。

→自分の意見は感想の中に入れる。

→チームでよく考えるようになる。

◆日経STOCKリーグに対する活動方針

②参加賞がゴールである。

- ・チームでレポートの完成が見込めるかを考えさせる。

テーマを変えること、メンバーの入れかえ等は理由を聞く。

- ・こんなレポートで応募できるのか？

審査は水物。自分の予想は当たったことがない
8ヶ月わたって作業してきた生徒の成果物を
「こんなレポート」と言い切っているのか。

日経STOCKリーグのレポートの要件を満たしていれば、
内容はともかく、生徒は立派に取り組んだ証である

了